

大山の宿 2020



2020年10月

旅のチカラ研究所 植木圭二

神奈川県の大山阿夫利神社の参道にある宿に妻と泊まってきた。ひょんなことから予約した宿だが、泊まってみれば実に良い宿だった。付近の見どころも併せて紹介したい。

■実質 10 円の旅

今回の旅のきっかけは、神奈川県が県民対象に宿泊費補助をする「かながわ県民割引」が開始されたことで、それは国の GoTo トラベルキャンペーン (以下 GOTO) と併用可能になっている。

かながわ県民割引は神奈川再発見というテーマなので、有名な箱根、鎌倉、横浜の補助は 5000 円だが、それ以外の地区に泊まると 7500 円補助される。加えて GOTO は 10 月から 1 泊に対して 35% の宿泊費補助以外に 15% の地域クーポンがもらえるようになった。

具体的には、今回の宿代が 2 人で 30800 円、これにかながわ県民割引 15000 円と GOTO の割引 10780 円で 5020 円になる。さらに GOTO の地域クーポン 5000 円が支給されるので、差し引き 20 円、つまり 1 人あたり 10 円になる。これはもはや行くしかない。

最近の私もまた神奈川再発見の旅をしており、今回は伊勢原にある「大山詣で」で有名な大山阿夫利神社の参道の宿を選んだ。大山には何度も登っているが、私の家からそう遠くはないので旅館に泊まったことがなく、一度くらいは泊まってみたいと思っていた。

予約した宿は創業 400 年の「山荘なぎさ」で、山の中の宿なのに“なぎさ”という名前にいささか戸惑いがあったが、かながわ県民割引が利用できる宿はこの地域では少ない。さらに 15000 円を少し超える料金プランがあるのでこの宿に決めた。

実は翌日にも近くの旅館を予約していたが、その旅館から電話があって、かながわ県民割引の割り当て分が無くなるので適用にならない旨を知らされた。慌てて山荘なぎさに電話で確認すると、こちらは間一髪セーフだった。それでもあと 1 日予約が遅れたら適用されなかった。それほどの人気で直ぐに予算を使い切ったようだ。

■山荘なぎさ

宿に着くと主人と女将が出迎えてくれた。主人とは県民割引の件を電話で聞いた時に気さくな人柄だと分かっており、女将も気持ちの良さが伝わってくる人で、何より安心できた。

小ぢんまりとやっている宿で、おそらく夫婦二人で従業員はいない。



<山荘なぎさ 私の車が駐車してある>

部屋に案内されながら「こちらがお風呂で、本日は植木様の貸し切りです」と言われ、風呂の入口を教えてくれた。私は「え、貸し切りですか？」と聞くと女将は「コロナのこともあって、今はそうしております」と答えた。本日のお客は2組で本来ならば男湯、女湯になる風呂を2組のお客がそれぞれ専用を使うようにしたらしい。

その時は「ふーん、平日なので2組しかお客がいないのか」などとやや同情的に思っていたが、後になって考えると敢えて2組しかお客を取っていないのかもしれないと思うようになった。そんな心配りが感じられる宿である。

部屋に案内されて、早速風呂に行く。この一帯は温泉が出る場所ではないのでどこの宿でも沸かし湯だが、女将の話ではこの宿では裏山から湧き水を引いているという。湧き水なので大地でろ過された透明度の高い湯になっている。

その湯に浸かってみて驚いた。明らかにその辺の温泉よりも湯の感じが良い。信仰の山なので霊泉とでもいうか身が清められるような気になる。今まで私は多くの温泉に浸かってきたが、こんな感覚の湯は初めて体験する。

戦後まもなく公布された温泉法によると温泉の定義は湧出温度が25℃以上、または19種類の成分の内1つでも一定量以上含まれていれば温泉と呼ぶことができる。つまり泉温が低い場合には混ざり物がどれだけ入っているかで温泉になる。その意味ではここの湯は混ざりものがない純粹で清らかな水なので、温泉とは真逆になる。かといって水道水を沸かしたのではカルキなど入っているのでこうはならない。

湯殿は小ぢんまりしているが、カランが4つあって湯船も4人は楽に入れる大きさに2人の貸し切りでは文句のつけようもない。

脱衣場も湯殿も決して豪華ではない、かといって安っぽくもなく掃除も行き届いている。一言でいうと“小奇麗”という表現が合っている。

部屋もまた豪華ではないが、小奇麗になっている。

女将は古い建物だと言うが、実に上手くリフォームしている。先日訪れた築 200 年という宿では古く見せるために現代的なリフォームをして、それっぽい壁紙や柱を黒く塗っていた。それは新宿や渋谷の古民家カフェのような感じで興ざめしたが、この宿はそうではない。最初から良質の材料を使って建てたらしく、リフォームでは古い柱をカンナで削って蘇らせるという手法をとったようだ。そういえば玄関の床は檜の一枚板だった。

女将に聞いたら、リフォームというよりも傷んだ部分の改修を一気にやらずに少しずつ行っており、大山の阿夫利神社を手掛ける宮大工に頼んで直しているという。宮大工の仕事ならばこの出来映えは納得できる。

夕食は個室に用意されており、大山は大山豆腐で有名なので豆腐料理を中心に多くの料理が並んでいる。豆乳鍋、胡麻豆腐、揚げ出し豆腐、豆腐でできた饅頭といった豆腐料理が勢ぞろいし、刺身や山女魚の塩焼きもある。

それらに加えて、しし鍋もある。猪の肉は比較的柔らかくて味付けはやや薄口の味噌味だ。いや最初は薄口かと思ったが煮込まれて濃くなるのを見越しているようで、食べ終わる頃にはやや濃いと感じるようになった。実によく考えられている。

最後のデザートに出てきた豆腐プリンもなかなか美味で、これは女性に人気がありそうだ。

朝食には出来たての豆腐が出てきた。再びのんびりと湯に浸かって、山荘なぎさを後にした。実質 10 円の宿は大正解だった。おっと、なぎさの名前の由来を聞くのを忘れた。

■神奈川県に出雲大社

大山だけではもったいないので秦野市の「出雲大社相模分祠」にやって来た。ここは名前が示すように島根県にある大国主（おおくにぬし）を祀った出雲大社の分祠で、私は神奈川県にこのような施設があることを知らなかったが、友人からここは面白いぞということを聞いて今回やって来た。



<出雲大社相模分祠の本殿>

広い境内には七五三で参拝にきた一組の親子連れだけが写真を撮っている。そんなのどかな光景の境内だが、威風堂々とした本殿が私たちが迎えてくれた。私は大国主に想いを馳せながら参拝した。

古事記や日本書紀によれば、大国主は日本を創った土着の神とされている。ところが“天孫降臨”で高天原に降り立った天照大御神に“国譲り”を要請され、大国主はしぶしぶこれを受け入れ日本を明け渡して“あの世”の主になった。

国譲りという平和的な表現にしているが、実態は譲ったのではなく武力で奪い取られた。それは普通に考えれば分かることだが、古事記も日本書紀も時の権力者が編さんしたので都合のよい表現になっている。ついでに何処から高天原に来たのか、察しはつくが触れないでおこう。

出雲大社は大国主を祀るために建てられたので、極めて特別の神社だ。それゆえ参拝の作法も特別で、普通の神社は二礼二拍手一礼で参拝するが、出雲大社は二礼四拍手一礼で参拝する。

大国主へのご機嫌伺いか監視のためか分からないが、日本中の神々が年に一度出雲に集まるといふ。10月を神無月と呼ぶのは神々が皆出雲に行って留守になるのでそう呼んでいる。逆に出雲では10月は神在月（かみありつき）と呼ぶ。

そして今月は10月、神々は出雲に集まっているはずだ。

ではこの分祠は一体どうなるのか。それは出雲とリモート会議やリモート宴会をしているのだろう。神々は古昔から、そう神代の昔から既に新しい生活様式を取り入れているに違いない。

■神奈川県央を巡る

秦野から「ヤビツ峠」に行く途中の標高 570m のところに「菜の花台展望台」がある。ここには高さ 20 くらいの木製の立派な展望台があり、東は三浦半島や江の島、西は真鶴半島から伊豆半島まで相模湾沿岸を一望できる。

車で来ることができるので案外知られていないデートスポットかもしれない。



<菜の花台展望台>

菜の花台展望台からさらに奥にあるヤビツ峠にやってきた。ここは丹沢登山の拠点になる場所で名前は知っていたが初めて訪れる。

ここに立ち寄ったのは理由があって、来年春にオープンするヤビツレストハウス（仮称）を見に来た。実はそのレストハウスの運営者を秦野市が公募しており、それに応募したらどうかと私は知人から薦められていた。

秦野市はそのレストハウスの運営を任せるべく山好きで商才のある個人を対象に公募している。年間 54 万円の賃貸料を収めなければならないが、それ以上の収入があれば利益になる。ちなみにヤビツ峠には昨年は 43 万人が訪れており、秦野市は年間収入を 182 万円と見込んでいる。43 万人のうち 1 割が入店したとして客単価 100 円としても 430 万円になるからいけそうな数字だ。

私はそれに応募する気はなかったが、友人と話をするためにどんな場所か知りたくてやってきた。残念ながら建物は現在基礎工事中で何も出来ていなかった。公募で決まった運営者に会いに、来年の春また来ることにしよう。

伊勢原市の日向（ひなた）地区を訪れる。ここには国の重要文化財の「日向薬師」がある。ところが日向薬師は荒天、雨天は拝観を止めており、本日はあいにくの小雨で参拝できない。それどころか門から中に入ることもできず写真撮影もできない。あくまでも“ひなた”にこだわっているらしい。

日向薬師に行けないので近くにある「浄発願寺」を参拝した。本堂の横には高さ 26m もある立派な三重塔がある。この山奥でこの大きな塔の出現には正直驚いた。

神奈川県でもこんなところもあるのかと驚くが、私が今まであまりに神奈川県を知らな過ぎたのかもしれない。

■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひょい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。何が良かったとか悪かったとか、あれこれ話し合っ各項目を 5 段階で評価し、委員会として評価値を算出する。

評価の基準は、5 は驚き感動、4 は普通に良い、3 は可もなく不可もない、2 は普通に悪い、そして 1 は失望落胆としている。

総合点（平均値）で 5 段階の 75%、つまり 3.75 をオススメの目安としている。特に 4.00 を超えるには驚き感動が少なくとも 1 項目以上あるからオススメ度は高い。

山荘なぎさは温泉でないので評価するのは筋違いかもしれないが勝手に評価してみる。泉質 5、風呂 4、料理 4、コスパ 4、サービス 4、建物・部屋 4、立地環境 3、総合 4.00 になった。

■旅の記録

実施は 2020 年 10 月 22 日（木）～23 日（金）の 2 日間、その行程を以下に示す。本文中の順番とは異なる部分もある。

- ・ 1 日目 午後自宅出発、出雲大社相模分祠参拝、菜の花台展望台、ヤビツ峠、15 時山荘なぎさに到着し、大山詣でのコマ参道を散策
- ・ 2 日目 朝 10 時宿を出発、日向薬師に行くが雨天で拝観禁止、浄発願寺参拝、昼前に帰宅

宿泊費は山荘なぎさの宿泊費 30800 円（2 人分）に対してかながわ県民割引 15000 円と GOTO 割引 10780 円が適用され、その結果支払い総額 5020 円（2 人分）になった。GOTO 地域クーポン 5000 円をもらい、相殺して 1 人 10 円の旅になった。地域クーポンの用途は大山のコマ参道で土産物を買ひ、残りは神奈川県内の自宅近くの店で使った。

交通費はガソリン代のみ約 800 円だった。